

「住みよい地球」を願い さまざまな社会貢献活動を推進

幼少期の貴重な体験

大阪で生まれ育った私は、父が松竹の顧問医をしていた関係で、幼い頃は父に連れられて文楽座の楽屋によく出入りし、技芸員の方々と気楽にお話をする機会が多くありました(1909～1963年まで松竹が文楽座を経営)。とくに人形遣いの吉田文五郎さんとは家族ぐるみの交流がありました。

また、父は日本画家の先生方とも親交があり、私も日常のなかで絵画や書を見る機会が多くありました。まだ子どもでしたから、その良さを味わうところまではいきませんでした。今にして思えば、そうした経験が日本の伝統文化に関心を持ち、その担い手を応援しようという気持ちにつながっているのだと思います。

とはいえ、今の時代は個人がタニマチになって支援するには限界があります。ですから伝統文化に限らず、さまざまな文化活動を企業がバックアップして盛り上げることが大事だと思います。当社は、1988年よりNHK交響楽団への事業協力として、毎年『N響・夏』を開催し、今年で27年目になります。1988年から

2000年までは、外山雄三先生や池辺晋一郎先生をはじめとする我が国を代表する作曲家に、日本の各地域の伝統メロディーをモチーフにした「ふるさと交響楽」を作曲委託し、当社協賛の演奏会で披露し好評を博してきました。2008年からは、クラシック音楽界の登竜門といわれる『大阪国際室内楽コンクール&フェスタ(日本室内楽振興財団主催)』の支援も行っています。

優秀な人材と日本文化の理解者を輩出

日本で最初にプロパンガスを販売した当社は、「LPガス事業」と酸素や窒素などの「産業ガス事業」を柱として発展してきました。創業者の岩谷直治氏は、そうした当社の成長を支えていただいた社会へ私財の一部をお返ししたいとの思いから、1973年に科学技術庁(現文部科学省)の認可を受けて『岩谷直治記念財団』を設立し、大学や企業のエネルギーや環境に関する優れた研究開発に助成金を出したり、顕著な功績を上げた技術開発を「岩谷直治記念賞」として表彰しています。研究助成に



については、財団設立後41年間で696件にもなります。

また、国際社会の発展と交流を促進する観点で、海外からの留学生に対し、財団から奨学金を給付しています。主に東南アジアからの留学生が多く、現在まで延べ426名に給付してきました。その卒業生の6割ほどは、後年、母国に帰って政府高官や大学教授などの要職に就き、4割ほどが日本で教職に就いたり企業で活躍しています。ちなみに在大阪シンガポール共和国総領事や同国の経済開発庁長官特別補佐官を務められた徐礼信(スイレイシン)氏も、当財団の奨学金で留学された一人です。私はこうした優れた人材や日本文化の良き理解者が数多く世界に輩出されることを、とても意義深く思っています。

災害時の緊急要請に応える

現在、当社のプロパンガスは、全国で約310万世帯のお客様にご使用いただいています。そのため当社では、暮らしのエネルギーを守り絶やさないための備えに注力しています。その一つが20年前に発足した『MaruiGas災害救援隊』です。これは当社のLPガス『MaruiGas』のディーラー1400社・約3200名の有資格者による相互支援組織で、地震や水害などが発生した際には、LPガスと生活支援物資を携えて被災地に急行し、支援活動を行なうものです。大雪でLPガスボンベ置き場の屋根が倒壊したという連絡が入れば雪かきに出動するなど、隊員の方々には体を張って尽力していただいています。

また、大規模災害時に備え、カセットこんろとカセットガスの無償供給を目的とした支援基金も設立しています。東日本大震災では、カセットこんろ約2万2000台、カセットガス12万本を提供しました。ボンベを設置すればどこでも使用できるLPガスは、電気や都市ガスが途絶えた場合のライフラインとして、災害時にはとても重宝されます。災害救援隊や支援基金は、そうした期待にお応えするための社会貢献活動のひとつです。

日本発・第二の産業革命

昨年12月、トヨタ自動車株式会社が燃料電池自動車「MIRAI」を発売し、話題になりました。当社は、その燃料となる水素を70年以上前の1941年から製造・販売しています。当初は産業用に限

定されていましたが、近年は「人類の究極のエネルギー」として用途の拡大が期待されています。

そこで当社は、かねてより液化水素の製造能力を高める一方、来たるべき水素エネルギー社会に向けて、さまざまな啓発活動を行っています。2007年には当社所有の燃料電池自動車、水素自動車で、種子島から稚内までの約6000kmを縦断する水素啓発キャラバンを行い、行く先々で小中学校を訪ねて『水素サイエンス教室』を開きました。2010年からは、創業80周年を記念して、当社の企業スローガンである「住み良い地球がイワタニの願いです」から「住み良い地球」をテーマとする『全国小学生作文コンクール(審査委員長・茅陽一東京大学名誉教授)』を開催しています。2014年度はその5回目を迎え、5459点もの力作が集まりました。このコンクールは、次代を担う子どもたちが地球環境を考える機会になると、保護者や学校関係者から大変好評をいただいています。

現在、MIRAIの登場と安倍政権下での規制緩和によって、水素社会の到来に期待が寄せられています。2015年度までに4大都市圏にて100ヶ所の水素ステーション整備を目指し、当社を含めエネルギー関連の企業が建設を進めています。私は、今後さまざまな業種・業界で水素を実用化した製品や技術開発が進めば、日本発の第二の産業革命を起こすことができると考えています。話が大きすぎると言われそうですが、それぐらいの夢と気概を持って、本業にも文化支援にも取り組んでいきたいと思っています。

牧野明次氏

1941年大阪府東大阪市出身。1965年大阪経済大学経済学部卒業後、岩谷産業株式会社入社。2000年同社代表取締役社長を経て、2012年より現職。現在、関西経済連合会副会長、大阪商工会議所常議員なども務める。大阪発の新産業創出を支援する「ベンチャーコミュニティー(1999年設立)」の「大阪美化プロジェクト」の提唱者で、自身も大阪の街路(御堂筋、堺筋、四ツ橋筋周辺)の清掃活動にも参加している。

岩谷産業株式会社

大阪本社：大阪市中央区本町3-6-4 / 東京本社：東京都港区西新橋3-21-8
創業 1930年(設立 1945年)。LPガス、カセットこんろを中心としたエネルギー事業、酸素や窒素などの産業ガス事業を柱に、そこから派生する機械、溶材、マテリアル、食品など幅広い事業を展開。資本金200億9,643万円(2014年4月1日)、売上高7,039億2,300万円(2013年度連結実績)、従業員数1,422名(2014年4月1日)。



N響・夏(2014年)



岩谷直治記念賞贈呈式(2014年)



MaruiGas災害救援隊(2011年)



水素サイエンス教室(2010年)



絹谷幸二氏の絵画をラベルに用いた
同社製品の「富士の湧水」



全国小学生作文コンクール2014
入賞作品集を発行(2014年)

写真提供：岩谷産業株式会社